

近郊版



観葉植物
松井すみえ
彩美会

ニュース情報は下記へ
社 会 部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

春日井支局 〒486-0844
春日井市鳥居松町4-68
シティ春日井ビル 2階D
0568-81-2036 Fax81-2797
犬山通信局
0568-61-2612 Fax61-2613
小牧通信局
0568-72-1177 Fax72-6530
瀬戸支局
0561-82-3121 Fax82-5316
一宮総局
0586-72-4545 Fax72-5035
江南通信部
0587-54-4001 Fax54-9622

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

供養のかけこみ寺
葬儀 供養 樹木葬
縁切り供養
大法寺
気軽にお話ししましょう
0567-28-7319
愛西市稲葉町江頭10番地
樹木葬 大法寺 検索

中部大春日丘高インターアクトクラブ

「つなぐっず」文科大臣賞

高校生がビジネスの手法で地域の課題などを解決する「ソーシャル・ビジネス・プロジェクト(SBP)」の全国大会で、中部大春日丘高(春日井市松本町)のボランティア「インターアクトクラブ」が、最優秀の文部科学大臣賞を受賞した。企業などと協力し、物やサービスの売り上げの一部を、生徒が運営する無料塾の活動資金にする「つなぐっず」を提案した。

長時間に勉強を教えている。時にはクラブ員自ら料理する子ども食堂や、工作教室も開く。

八月に三重県伊勢市の皇学館大で開かれた「全国高校生SBP交流フェア」に、毎週日曜、飲食店の空

き時間に勉強を教えている。時にはクラブ員自ら料理する子ども食堂や、工作教室も開く。



①賞状を手にする中島さん(手前中央)らクラブの生徒たち=春日井市松本町の中部大春日丘高で
②交流フェアに出店したインターアクトクラブのブース=三重県伊勢市の皇学館大で(同クラブ提供)



運営の無料塾に企業寄付活用 提案

「つなぐっず」の仕組みはこうだ。食品やヘアカットなどの商品、サービスを事業者から提供してもらい、ポツポツと集まる。クラブ員が担当。売り上げの一部がクラブ側への寄付となる。寄付分を価格に上乗せするケースもあるが、高校生が携わることがアピールとなり、多少高めの値段設定でも消費者に受け入れてもらえるという。商品、サービスは現在、不登校やひきこもりの若者らをサポートするカフェ「ワンぼてい」と(春日井市小野町四)のラスクをはじめ、菓子や理髪店の散髪代など五件に広がっている。発案者は二年の中島愛深さん(も)。無料塾のため、ビジネスへどうつなげるか悩んだという。六月上旬、応募の締め切りが迫る中でふと思いついたのが「買う支援」だった。クラブはこれまで東日本大震災の被災地支援で、風評被害に苦しむ現地の産品を買い取り、イベントなどで販売してきた。中島さんは「自分たちの活動に活用できないか」と考え、二年

の山内悠生さん(こ)、一年の高見姫梳さん(こ)と喚田ももさん(こ)の四人のチームでアイデアを煮詰めた。事前選考を通過した六校による本番のプレゼンテーションでは、クラブの持ち味という「元気の良さ」を生かした。持ち時間十分で他校はパワーポイントを使って読み上げるスタイルが多い中、中島さんたちは手書きの模造紙を用意し、ダンスや、四人で選手宣誓のように声を張り上げる趣向も凝らしてアピールした。

審査では、商品やサービス購入が寄付など社会貢献になる「コーズマーケティング」の手法を取り入れた点も評価された。コーズマーケティングの支援対象は途上国などが多く、遠方のため実際の使い道などが見えづらい。つなぐっずは使途がはっきりしており、身近な地域支援にも活用できることを証明した。

クラブ顧問の松本誠太教諭(こ)は「普段の活動を通じて信頼と実績、ネットワークがあったからできた。企業などに相談したら乗ってくれる見込みがあった」と振り返る。つなぐっずで得られた寄付金は将来的に、地域貢献を目指す地元のNPO法人などの支援にも充てたいという。